

2024 年度臨時（第 1 回）理事会議事録

1. 日 時：2024 年 5 月 25 日（土）11：00～16：00
2. 場 所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 3 階 8 会議室
オンライン会議システム ZOOM を併用での開催
3. 出席状況

出席理事 26 名
出席監事 3 名
出席オブザーバー 20 名

・ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE

理事：安藤淳、舩澤泰隆、長塚奉司、関一人 以上、4 名
オブザーバー：（次期理事候補）古屋勇人、佐藤公俊、地川浩二 以上、3 名

・ オンライン参加（自宅）

理事：馬場益弘、中澤信夫、富田三和子、中村隆夫、望月宣武、宮野幹弘、尾形依子、萩原
ゆき、鈴木 祥子、中村和哉、永井真美、大垣俊朗、高橋祐司、中島量敏、目瀬好男、加賀
谷賢二、五十川浩司、石川彰、井上貴支、岩瀬喜貞、沼田浩行、高間信行 以上、22 名
監事：上野保、紙谷雅子、鈴木保夫 以上、3 名
オブザーバー：浅田素之総務委員長、松田財政委員長、平松事業開発委員長、長田レディー
ス委員長、坂口英明普及指導委員長、黒川国民スポーツ大会委員長、宮本オリンピック強化
委員長、川合外洋計測委員長、坂口外洋通信委員長、藤井裕文ルール副委員長、坂谷定生参
与、多賀啓顧問弁護士、
（次期理事候補）鷹野淳子、平岡志帆、伊藤亮一、側田晴楽、西尾隆 以上、17 名

4. 議事の経過及び結果

対面開催と ZOOM 併用でのハイブリット方式で開催した。出席者の音声と映像が即時に他の
出席者に伝わることを確認し、適時的確な意見表明がお互いに出来る仕組みになっていること
を参加者各位に確認し、議案の審議を下記のとおり開催した。

（定足数の確認）

理事 30 名中、出席者 26 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立
した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、馬場益弘会長が議長となり、2024 年度臨時（第 1 回）理事会の開会を宣言
し、議事進行を安藤淳専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、鈴木祥子、関一人の両理事が任命された。

(審議事項)

1) 2023 年度事業報告書 (案)

安藤専務理事から資料に基づき、2023 年度事業報告書について説明があった。

2023 年度は、ウィズコロナの新しい日常の中で連盟としての活動を再スタートさせた。また、目まぐるしく変化している国際情勢や経済環境も、スポーツ界に様々な影響をもたらしている。セーリング界も、新しい時代と新しい生活様式、多様な価値観に合わせて変わって行かなければならないとの課題認識の下、2022 年度には馬場益弘会長の新体制のもとで、組織基盤強化や勝ちに行くコーチング体制、日本パラリンピック委員会への加盟への取り組みなどの活動を開始したが、2023 年度は連盟中期基本方針に基づいた具体的活動を更に加速、推進したと、等との報告があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

2) 2023 年度決算報告書 (案)

松田財政委員長から資料に基づき、2023 年度決算報告書 (案) について説明があった。

2024 年度に開催のパリオリンピックに向けた準備の年である 2023 年度決算の規模は、2022 年度から若干の増加となった。2023 年度の JSAF 全体の事業活動収入合計は 422,569 千円となり第 2 次補正予算 (以下、「予算」) 比△39,781 千円減少 (対予算 91.4%) となった。予算との差異の主な内訳として、補助金等収入が△14,595 千円減少した一方、受取負担金収入は予算比 5,893 千円増加した。会費収入は予算比 1,322 千円増加した一方、寄付金収入と協賛金収入はそれぞれ予算比△3,388 千円減少と△1,440 千円減少した。事業収入全体の合計で予算比若干の増加 (894 千円) となったが、その内訳として広告料収入とその他委託事業収入がそれぞれ 2,806 千円と 2,000 千円の増加、資格認定料収入が 2,215 千円減少した。2023 年度の JSAF 全体の事業活動支出合計は 435,707 千円となり、予算比△58,990 千円減少となった。

事業費支出は、予算比△32,980 千円減少した。内訳で予算比減少した費目として、渡航費、滞在費、旅費交通費の支出が合計で△15,618 千円減少、委託費支出が△17,361 千円減少した。一方、予算比増加した費目は、賃借料、諸謝金、支払助成金、海外大会参加費支出となった。管理費支出は合計で予算比 5,205 千円増加しているが、そのうち業務委託費支出で 7,702 千円増加した。これにより、事業活動収支差額は▲13,138 千円の支出超過となり、予算と比較すると約 19 百万円のバランス改善となったとの報告があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

3) 2024-2025 年度理事推薦候補者について

浅田総務委員長から資料に基づき、2024-2025 年度理事推薦候補者について説明があった。

役員候補推薦管理委員会で理事推薦候補者の選出管理を行い、32 名の JSAF 理事推薦候補者の選出について報告があった。2024-2025 年度全国加盟団体代表者による理事推薦候補者は、会長理事候補：馬場益弘 (敬称略)、理事推薦候補者：安藤淳、船澤泰隆、宮野幹弘、古屋勇人、鈴木

祥子、萩原ゆき、長田美香子、濱野文（敬称略）、2024-2025 年度水域理事候補は、尾形依子、石川彰、伊藤亮一、井上貴支、川戸 仁、岩瀬喜貞、側田晴楽、西尾隆、中村和哉、平岡志帆、大槻映幸、五十川浩司、田中葉子（敬称略）、2024-2025 年度会長推薦理事推薦候補者は、中村隆夫、富田三和子、望月宣武、地川浩二、鷹野淳子（敬称略）、2024-2025 年度委員会推薦理事候補者は、アスリート委員会：吉田愛（敬称略）、パラセーリング委員会：佐藤公俊（敬称略）、2024-2025 年度外部推薦理事候補者は、秋田正紀、土肥美智子（敬称略）との報告があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

4) 2024-2027 年度評議員候補者について

浅田総務委員長から資料に基づき、2024-2027 年度評議員候補者について説明があった。

2024-2027 年度評議員候補者について、前回（2020-2023 年度）評議員選出枠同数を水域ごとに評議員選出枠に設定、全国連携組織選出枠 6 名、有識者 3 名は現行通りで 51 名を選出した。今回の評議員の選任は、ガバナンスコード遵守の観点から、①水域ごとの選出枠の 2 割以上を女性とする。②有識者枠及び水域ごとの選出枠は外部評議員比率向上を目指すことを努力目標に掲げて対応したとの説明があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

5) 評議員選定委員会委員の変更について

浅田総務委員長から資料に基づき、評議員選定委員会委員の変更について説明があった。

評議員選定委員の評議員委員につき、現行の委員である伊藤亮一氏が理事候補者就任のため辞任届が提出されたことより、山本俊貴氏を評議員委員に交替するとの説明があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

6) 支援寄付金（日本 420 協会）

浅田総務委員長から資料に基づき、支援寄付金申請について説明があった。

日本 420 協会から、5 月開催の 420 アジア大会の大会運営費を資金使途にした支援寄付金申請があったとの発言があった。

中村副会長から、本来は JSC 基金助成金大会として申請していたが不可となり、馬場会長からの寄付金を受けた結果となったとの説明があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

7) 「ナショナル・ジャッジ、ナショナル・アンパイア規程」改定

藤井ルール委員会副委員長から資料に基づき、NJ、NU 規程改定について説明があった。

NJNU 規程に定めているジャッジの役割や職務とは無関係な実績を有していることを NJB の

新規認定要件としている不適切な状態を改善するために、NJB の新規認定要件中の審判実務経験を「ジャッジまたはジャッジ補助実務経験」に限定する。NJB にも講習受講・試験合格後に他の要件（審判実務経験や年齢要件など）を充足するための期間（以下「合格有効期間」という）を設けるとの説明があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

8) 佐賀国スポならびに滋賀国スポリハーサル大会中央競技役員（案）

黒川国民スポーツ大会委員長から資料に基づき、佐賀国スポならびに滋賀国スポリハーサル大会中央競技役員（案）について説明があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

9) パラセーリング委員会委員長・副委員長選任

高間パラセーリング委員長から資料に基づき、パラセーリング委員会委員長・副委員長選任について説明があった。パラセーリング委員会委員長を佐藤公俊氏、副委員長に外山昌一氏、中尾義一氏の 2 名としたい、との説明があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

10) 2024 年度定時評議員会の招集について

安藤専務理事から資料に基づき、2024 年度定時評議員会の招集について説明があった。

2024 年度定時評議員会を、2024 年 6 月 15 日（土）、日本青年館ホテル 8 階会議室で Zoom を併用したハイブリット形式で開催するとの説明があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

（協議事項）

1) 運営規則の改訂（加盟団体規程新設）

安藤専務理事から、運営規則の改訂（加盟団体規程新設）は継続協議とするとの説明があった。

2) ユニフォーム規程改定ならびにオリ強謝金規程の連盟規程化について

宮本オリンピック強化委員長から資料に基づき、ユニフォーム規程改定ならびにオリ強謝金規程の連盟規程化について提案があった。

ユニフォーム規程改定について、5 月 15 日現在、サプライヤーに立候補頂いた SAILFAST 社との協賛契約（2 年間の VIK 契約）をドラフト、協議中である。提供内容はほぼ固まっており、そちらに基づいた着用規程のアップデートおよび詳細ガイドラインの策定を関係各所と協議の上、

6 月理事会審議事項として提案する。

オリ強謝金規程の連盟規程化について、オリ強にて活用している JSC くじ助成金については、令和 5 年度までは実施要領の中に謝金の基準単価についての記載があり、オリ強としては当該基準単価に基づき内規を制定して謝金水準の設定等を行ってきた経緯がある。他方、令和 6 年度に至って当該実施要領が改訂され、謝金の基準単価が削除されると共に、「助成事業者の謝金規程や給与規程に基づいて支払っていない経費や、規程を超過して支払っている金額については助成対象経費として計上できない」との文言が追記されたため、2024 年 1 月よりオリ強内規として運用してきた謝金規程を連盟規程として制定したい旨の説明があった。

3) ルールブック発行形態と価格

藤井ルール委員会副委員長から資料に基づき、ルールブック発行形態と価格の提案があった。

2025-2028 ルールブック（セーリング競技規則およびセーリング装備規則）発行形態・価格について、製本版は会員 2,800 円（一般 3,500 円）、スマホアプリ 1,840 円とする。次回 6 月 15 日理事会において審議とする旨、説明があった。

（報告事項）

1) 業務執行理事報告（能登地震義援金、経営企画室、ヤンマー社協賛契約、佐賀県包括連携他）

安藤専務理事から資料に基づき、能登半島地震セーリング関係復興支援義援金一覧ならびに募金総額 1,259,522 円の義援金が集まった旨、報告があった。

馬場会長から、7 月に石川県に直接出向き、義援金を渡すとの報告があった。

安藤専務理事から資料に基づき、佐賀県と公益財団法人日本セーリング連盟との間のスポーツ振興に関する連携協定を締結することについて報告があった。

中村副会長から資料に基づき、ヤンマーホールディングス株式会社との初のオフィシャルパートナー契約の締結について報告があった。本オフィシャルパートナー契約におけるヤンマー社からの協賛内容は、ジュニア世代・ユース世代が参加するセーリング大会への協力、セーリング全般に関わる JSAF 全体の活動支援、海洋環境保全に係る JSAF の活動支援となっているとの報告があった。

大垣環境委員長から資料に基づき、See Sports 実現に向けた大規模大会の動画配信実証実験 2023 年度結果について報告があった。観戦者にアンケートによる評価を踏まえ、引き続き見る価値の向上に取り組んでいくとの説明があった。

中村副会長から資料に基づき、経営企画室の 2024 年度の計画・予算・体制について説明があった。望月常務理事から、情報プラットホームの外洋艇登録ならびに資格管理状況について報告があった。特に、団体交付金と団体負担金等の諸費用負担の枠組みについては、論点整理し、理事

会で議論が必要である。また、現行のシステムから DNP システム運営会社に移行すると、DNP システム利用料に、決済手数料と保守費が含まれる（合計約 500 万円の支出削減）。現状、DNP 提案のシステム利用料体系は、トランザクションごとの従量制課金（決済手数料を含むので定額にできない）。会員・JSAF・加盟団体の間で、システム利用料をどのように分担するか。団体交付金制度を維持するのか（維持できるのか）という論点も再燃するとの発言があった。

2) 組織基盤強化支援事業に関する特定契約の締結の報告

望月常務理事から資料に基づき、組織基盤強化支援事業に関する特定契約の締結の報告があった。経営企画室が推進する組織基盤強化支援事業に関し、特定契約⑥（連盟契約規程第 6 条第 1 項（4）6））を締結しましたので、同条第 2 項に基づき報告するとの説明があった。

3) 愛知名古屋アジア大会準備状況報告

安藤専務理事から資料に基づき、2026 愛知名古屋アジア競技大会準備状況報告があった。TOM、副 TOM 選任状況ならびに開催種目の最終決定へ向けて検討中であるとの説明があった。

4) 総務委員会報告（コンプライアンス）

浅田総務委員長から資料に基づき、新任理事に対するコンプライアンス研修の実施について報告があった。6 月 15 日（土）理事会終了後、多賀顧問弁護士において、新任理事に対するコンプライアンス研修を実施する。役職・職員（利益相反規程第 3 条による対象者）の利益相反に関する申告を実施するとの説明があった。

5) オリンピック強化委員会報告

宮本オリンピック強化委員長から資料に基づき、オリンピック強化委員会報告があった。Paris2024 代表内定選手は、470：岡田奎樹/吉岡美帆（トヨタ自動車東日本/ベネッセホールディングス）、iQFoil 男子：富澤慎（トヨタ自動車東日本）、49erFX：田中美紗樹/永松瀬羅（豊田自動織機）、Nacra17：飯束潮吹/西田カपीリア桜良（エス・ピー・ネットワーク）となった。4 クラス、7 名の選手が代表内定したことから、最大で 10 枚(ATO8 枚、P2 枚)のスタッフ用アクレディテーションが配布される予定、会場内スタッフのフォーメーションを現在検討中であり、近日中に決定する。その他、2024 年 2 月以降の代表選考大会成績について説明があった。

6) ルール委員会報告

藤井ルール副委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

国内で開催される国際大会におけるインターナショナル・ジュリー・メンバーについて、ASAF Sailing Cup JSAF Enoshima Olympic Week 2024 大会の主催団体より、インターナショナル・ジュリー構成について承認（報告）した。また、2024 年度 JSAF ユースセーリングチャンピオンシップ大会における上告権利の否認の承認（報告）をしたとの説明があった。

7) ODC 計測委員会報告（IM セミナー）

中村 ODC 計測委員長から資料に基づき、ワールドセーリング IM セミナー（愛知・蒲郡）の開催報告があった。2026 年名古屋アジア大会など国際環境の中で、レースオフィシャルズを務めようとしている人達をレベルアップし、World Sailing(WS) ステータスの資格を取得していただくために、2024 年 4 月 19 日～21 日の 3 日間、豊田自動織機 海陽ヨットハーバーで開催した。講師は、WS 国際計測員小委員会 Dimitris Dimou（ギリシャ）、Aileen Yam Loo（シンガポール）、受講者 17 名（日本 14 名、台湾 1 名、タイ 2 名）、受講者中 16 名が IM 試験を受験したとの説明があった。

8) 環境委員会報告

大垣環境委員長から資料に基づき、2023 年度環境委員会事業報告があった。

サステナビリティの意識・行動変容に向けた、他団体へのナレッジになるような取組を蓄積・発信するために、トライアル事業を支援する 2024 年度サステナビリティキャンペーン募集要項について説明があった。

9) 医事科学委員会報告

医事科学委員会から資料（JSAF 医事科学委員会組織構成）について報告があった。

10) 事業開発委員会報告

平松事業開発委員長から資料に基づき、風神ドライポロシャツ発売について報告があった。

JSAF 事業開発委員会ではネットショップ「JSAF SHOP」を運営してウェア、バッグ、小物アクセサリなど様々な JSAF ロゴ入りグッズを販売している。6 月初旬より、江戸時代に俵屋宗達を描いた「風神」をモチーフにしたデザインのドライ素材ポロシャツを新発売（一般価格 4,400 円、会員価格 3,960 円）するとの説明があった。

11) パリオリンピック競技日本代表選手団激励壮行会

富田副会長から資料に基づき、パリオリンピック競技日本代表選手団激励壮行会について報告があった。第 33 回オリンピック競技大会（2024/パリ）セーリング競技の日本代表選手団壮行会は、2024 年 6 月 28 日（金）、18：30 開場、19：00 開会、日本青年館ホテル 9 階バンケットルームで開催するとの説明があった。

12) 2024 年行事予定

13) 2023 年度メンバー登録数（3 月 31 日現在）

14) 2023 年度通常第 4 回理事会議事録 案（2 月 24 日）

15) その他

上記の項目について、寺澤事務局長からまとめて報告があった。

鈴木祥子理事からの理事会への意見について

鈴木理事からの資料提示に基づき、以下2点につき、理事会への意見があった。

① JSAF内での情報共有や連携の方法について

2020年からWS普及&地域委員会に属しており、WSから発信される普及開発に関する情報をJSAF国際委員会に共有してきた。普及や女性に関するものは普及委員会や女性委員会に所属する方も含めてきたつもりだが、各所で認識のズレや委員会同士の連携がないことによる混乱が生じる事例が見られた。JSAF宛（おそらく事務局？）にも届いているはずの、長期的にJSAFの利益に資するような情報（WSのプレスリリース予告やNF宛メール）が組織内にうまく共有・展開される仕組みづくりと、今後より一層求められるジェンダー平等やDEIに配慮した普及や育成強化の取り組みができるよう委員会同士の連携を構築を望む。

② パワハラについて

事例として挙げた委員会間で認識のズレ明らかになった際、事業予算のつけ方等で高圧的な物言いをされた。理解不足を含む様々な要因から認識の違いが生じた結果であることは認めるし謝罪も受けたが、威圧だったと感じた。組織内にそのような言動が恒常的にあると聞くと、それは活発な発言や良好な関係構築を妨げ新しい人や若者が組織に入ってきて委縮させるものとして容認されるべきでなく、どんな言動がパワハラにあたるのか改めて認識を深める必要がある。

大垣理事から、委員会横断が必要とされる事業において、委員会同士の連携やコミュニケーションの必要を感じるとの発言があった。

望月常務から、①について理事会共有のみでなく、連携が必要な事業には情報を届ける組織的な仕組みが必要である。組織内広報タスクや委員会から発信することを考慮すべきである。②について若い世代や女性が委縮する組織の硬直化は回避したい。理事会に意見していただけたことに感謝するとの発言があった。

萩原理事から、イベント発信なども男性目線で多様性が感じられない。ジェンダーバランスがとれているかチェック機能が必要である。WSから日本のSNS発信に避難されていると発言があった。

鷹野次期理事候補から、WSイベントについては事前情報の発信不足が原因で改善の余地はあるとの発言があった。

多賀顧問弁護士から、今後コンプライアンス研修などでディスカッションを試みたいとの発言があった。

中村副会長から、①について情報共有はできるところから開始したい。過去において委員長会議において意見交換をしてきた経緯がある。②について自覚されていない個人もいることは確認しているので、座学なども必要である。また、通報者窓口も利用可能ではと発言があった。

富田副会長から、情報共有は理事会では報告しているが、WSからの依頼や決定が遅く、広報対応が遅れたことは否めない。会員各位へはメールで通知をしているとの発言があった。

船澤業務執行理事から、委員会が閉鎖的である。必要に応じて各委員会委員長はオブザーバ

一出席ができるようにして、委員会の活動の理解が必要であるとの発言があった。

鈴木理事から、意見表明したことで一石を投じることができたと感じた。WSもJSAFも女性役員を増やすことはミッションである。WSクリニックからも世界的に女性をターゲットにした講習会が増えている。その担当部署などもJSAFで整えていくべきであるとの発言があった。

以上をもって、オンライン会議システムZOOMを使用し終始異常なく、議事全てを終了したので、議長は16時00分に閉会を宣した。

2024年度臨時（第1回）理事会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

2024年5月25日

議長 会長 馬場 益弘

議事録署名人 理事 鈴木 祥子

議事録署名人 理事 関 一人

副会長 中澤 信夫

副会長 富田 三和子

副会長 中村 隆夫

専務理事 安藤 淳

常務理事 望月 宣武

監事 上野 保

監事 紙谷 雅子

監事 鈴木 保夫